

令和3年度 京都府立洛東高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (最終段階)

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)			
<p>激変激動の時代を迎えるにあたり、生徒一人一人が高い志のもとに将来を見据えた希望進路を実現し、社会の担い手となる人材を育成する。</p> <p>○基礎学力、とりわけ「文章を読み取る力・書き切る力」「話を聴き取る力・書き取る力」「話す力・伝える力」を習得させる。</p> <p>○Time(時間)Place(場所)Occation(機会)に応じてあたり前のことをあたり前にできる力を育成する。</p> <p>○自他の命を大切にするとともに人間の多様性を尊重し、共生社会の一員として生きる力を育成する。</p> <p>○誰もが未経験時代の到来を他人事とせず「健全な危機感」を持つことの重要性について理解を促す。</p> <p>○学校行事、部活動、ボランティア活動等とおとして、生徒個々の資質能力を向上させるとともに学校の活性化を図る。</p> <p>○学校運営協議会の助言を参考にコミュニティスクールの取組を充実させるとともに地域社会に貢献できる力を育む。</p>		<p>・新教育課程の実施に向けて、特色と実績を生かしたカリキュラムとなるよう指導計画を作成するとともに、評価の観点を明確にした評価計画を作成し、指導と評価の一体化を図る。</p> <p>・「洛東高校のブランドデザイン」を明確にし、教科・分掌の指導が一体となる体制づくりとともに、効果的な広報活動について検討を進める。</p> <p>・学習習慣の定着、進路希望の早期決定と実現、基本的生活習慣(主に遅刻、家庭学習・授業への取り組み姿勢)について、教務部・進路指導部・生徒指導部が中心となって相互に関連づけを行い、具体的でわかりやすい指導方法を学年に提示していく。</p> <p>・生徒に寄り添った丁寧な対話的な指導の成果もみられるが、教職員が一枚岩となって指導を進めるための統一した指導方法の提案が必要である。</p> <p>・各学年の課題を明確にし、継続的・発展的な進路指導ができるよう、学年・教科と連携して具体的な仕掛けづくりを進める。</p> <p>・大学進学を希望する生徒に、しっかりと目標を持たせ努力する姿勢を身に付けさせるために、入学当初からの指導を進路指導部・学年部が連携して行う。</p> <p>・持続可能な社会の構築の視点から環境整備・美化活動を推進するための取組を、美化委員会と一緒に進める。</p> <p>・スクールカウンセラーや諸機関と連携し、様々な課題を抱える生徒への対応を進める。</p> <p>・ICTの活用について、校内全体の活用促進を図るとともに、1人1台端末を見据え、教科を超えた教材の研究やルールづくりを進める。</p>	<p>進路指導 『入学当初から・定期的継続的に・視野を広げる情報提供・内定後指導』</p> <p>学習指導 『授業を大切に・公開授業充実・個に応じた・観点別評価・進路希望に照らして』</p> <p>特別支援 『情報共有・家庭、関係機関との連携・個に応じて・日常観察』</p> <p>ICT活用 『校内研修の充実・教材開発、共有・他校連携・チャレンジ』</p> <p>生徒指導 『褒める・生徒の自主性や主体性を引き出す・温度差のない指導』</p> <p>環境整備 『事に臨む前、事に臨んだ後に場を整える・感謝の気持ち、奉仕精神を育む』</p> <p>広報活動 『全校体制で・HPの充実・SNSの活用・在校生、卒業生の活躍を紹介・出身中学校へのアプローチ』</p> <p>労働環境 『超過勤務縮減・整理整頓・相互理解と協力・意識向上・ノー残業デーの設定』</p>			
評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			中間	最終	総合	
国語科	<p>・言語活動を通して、社会生活に必要な知識技能を養う。</p> <p>・教養としての国語を学び、今後の人生を豊かにする。</p>	<p>話す・聞く・書く活動を通して、文章を主体的に正しく読解することのできる授業づくりに努める。その際、プリント学習やグループワークなどを適宜行うことで、授業を有効かつ円滑に進めていく工夫を行う。</p>	C	C	B	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からさまざまな制限があり、目的に応じたグループワークや話し合いなどの活動は一部しか取り入れることができなかった。しかし、生徒のニーズや学習状況に応じた教材作りは行うことができた。次年度以降は、新課程に対応した授業作りを行うために、さらなる教材研究を行う必要がある。</p>
		<p>さまざまな文章を通して、自国の言語や文化を知り、親しみを持たせる授業づくりに努める。その際、扱う教材の内容を身近なこととして感じられるように、ICT機器を活用するなどの工夫を行う。</p>	C	B		<p>ICT機器を利用して、絵や図、資料などを見せることで、学習内容をさらに深めさせる授業はある程度は行うことができた。今後は、言語文化を身近なことと関連させる工夫を行い、学習内容に親しみを持たせることのできるような授業作りを行っていかねばならない。</p>
地歴・公民科	<p>授業の内容と世の中の事象とを関連づけ、生徒に社会の見方・考え方を身に付けさせ、主体的に学習に取り組ませる。また、未来の有権者として、一人の主権者として現代社会での諸活動に参画する態度を育む。</p>	<p>地理・歴史・公民分野の授業内容を適切に理解させるとともに、時事問題や生徒にとって身近な事柄も扱い、生徒が自分のこととして社会の問題を考えられる授業を行う。また、学習の仕方の具体例を示し、学習への意欲を高める。適宜声かけを行い、生徒の状態を把握し、担任や分掌とも連携して指導を行っていく。補充や課題、日々の声かけにも応じない成績不振の生徒への指導としては、目が行き届く環境で課題等を取り組ませる等の方法を講じる。</p>	C	C	C	<p>地理・歴史・公民分野の授業で、時事問題や生徒にとって身近な事柄を扱うことで、社会の問題を自分事として捉えさせるようにしたが、コロナ禍ということもあり、友人と意見交換を行うことは十分にできなかった。課題のある生徒に関して、担任と連携をとりながら指導することができた。補充や課題、日々の声かけにも応じない成績不振の生徒への指導は、目が行き届く環境で課題等を取り組ませる等の方法を講じたが、それでも指導に乗らない生徒もいた。そのような生徒への今後の指導方法としては、引き続き根気強く声をかけ取組の場を設定する。来年度からの新カリキュラムの実施を見据え、基本的な感染対策を講じながら、グループ学習や実習、発表等、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう工夫し授業を展開する必要がある。また、iPadをはじめとするICTを活用した授業を引き続き積極的に行い、実践例を積み重ねながら、より生徒にとって望ましい使い方を試行錯誤していく。</p>
		<p>文献や新聞記事など多様な史・資料、視聴覚教材などを用いて、社会的な見方・考え方を身に付けさせ、現代の諸課題の解決をめざし、その内容を探究的に学習させる。また、プレゼンテーション能力を身に付けさせるために、科目の特性に応じて、発表やグループ学習、ディベートなどを取り入れ、他者の考え方にふれたり自己の意見を他者に伝えたりする経験をさせる。さらに、来年度以降の新指導要領の実施に伴い、学習内容の精査、検討等を行う。</p>	C	C		
数学科	<p>基礎基本の定着を重点目標とし、昨年度実施された第1回大学入学共通テストの傾向を分析・考察し、新学習指導要領を視野に入れた授業改善を行う。</p>	<p>共通の小テストや週末課題等を通して、基礎基本の定着と学力向上、学習習慣の確立を図る。</p>	B	B		<p>各講座ごとに週末課題や小テストを実施し、家庭での学習習慣に定着を図ることができたが、3学期から担当者が代わるなど様々な要因から全講座共通の課題や小テストは実施できなかった。</p> <p>短縮授業の影響もあり、教科書を進めていくだけで手一杯であるため、他教科と連携をとったり、教科書外の事柄を扱っていく余裕がなかった。</p> <p>1学期から進学補習は開講しており、夏季補習や冬季補習なども十分に行うことができた。学びの基礎診断の結果をもとに習熟度で各講座の人数を調整していたが、3学期からはクラス単位の授業となった。</p> <p>教員の授業力向上に向けて教科内でのICTを活用する研修会を3月末までに教科会にて行う予定である。</p>
		<p>教科内だけでなく他教科とも連携をとり、文章を読み取る力・必要な情報を抜き出す情報処理能力を身に付けさせ、実生活に結びついた事柄を扱った問題や会話形式の問題を理解し、自力で解くことのできる力を育成する。</p>	C	C	C	
		<p>教科会議にて、「進学補習の充実」「教員の授業力向上」「生徒の学力実態把握」に向けて、学びの基礎診断等の分析・考察を行う。</p>	C	C		
理科	<p>これからの社会を担う人材として、基礎学力の向上を図り、主体的に学ぶ姿勢や問題解決する力を育成する。</p>	<p>基礎学力が身につけているかを小まめに小テストや課題、レポート等によって確認し、授業に反映する。個々の到達度や進路目標に合わせた課題の設定を行う。また知識だけでなく、得た知識を活用し、具体的な問題に取り組むことで思考力を身に付けさせる。家庭学習や小テスト、定期考査を利用して、計画的に学習する力を身につけさせる。</p>	C	B	B	<p>・定期的に自宅学習課題やレポート等を課し、基礎学力や思考力、学習習慣が身につくように努めた。</p> <p>・1年生はプログレスとライフデザインの生徒が混在しており、クラス内での到達度の差が大きい。個々に合わせた指導までできておらず、特に2年生で理系を選択する生徒に対しての手立てが必要である。</p> <p>・コロナ禍で制限が多く、計画通りに実験・実習が進められなかった。少ない実験の中で、生徒は主体的に課題に取り組み、理科的思考力を養う機会にはなかった。</p> <p>・来年度に向けて教科でICT活用について考えるために研究授業を行い、意見交流を図った。機器が不足しており、実際にどのように双方向で有効活用できるかが想定できず、来年度への課題である。自分の意見を発信する方法として、ICTを上手く活用していきたい。</p>
		<p>学習意欲を高めるために、実験・実習や理科的思考を養うような授業を、実施方法を工夫しながら取り入れる。また生徒の理解を深め、関心を引くために、ICT教材を積極的に取り入れ、有効的な活用方法を考える。生徒が主体的に取り組める課題を設定し、発表を通して自分の考えを整理し、発信する力を身につけさせる。</p>	C	C		

保健体育科	<p>・心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって計画的に運動に親しむことができる。また、自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力の育成を目指す。</p> <p>・主体的・対話的で深い学びを目指した授業を行う。</p>	<p>・自ら考えたり、工夫したりしながら運動の課題解決能力の育成のため、ICT機器の活用やグループ活動、発表等を取り入れ、主体的・対話的な学びを手助けする。</p> <p>・各種目でルールテストを実施し、技術・ルールについて理解させる。</p> <p>・運動における競争や協働の経験を通して一人一人に責任感を持たせる。</p>	C	C	<p>・3年生についてはグループ学習を実施。練習計画等を自ら立て、実施する中で問題解決能力を図っている。</p> <p>・各種目においてルール理解度テストを実施し、技術やルールについて理解を深めることができた。</p> <p>・1、2年生の一部種目においてグループワーク、グループ発表を実施し、一部ではあるがICT機器を活用して、活動の振り返り等を行った。今後、学年を問わず活動の中でICT機器を活用していきたい。</p>
		<p>・ヘルスプロモーションの考え方を踏まえて、個人の適切な意志決定や行動選択が生涯の健康づくりに関わることを意識させる。</p> <p>・課題学習を通して、調査・研究・発表を実践させる。発表の際には生徒自らがICT機器を活用したプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を育てられるよう指導する。</p>	B	C	<p>・夏期休業中に自らテーマを設定、調査・研究を行い、2学期に課題発表を行った。</p> <p>・パワーポイントやKeyNoteで資料を作成し、ICT機器を活用して発表を行う生徒が増えてきたが、一部の生徒・講座に留まっているため、多くの生徒に広げていきたい。</p> <p>また、発表の形式が発表者の一方通行になっていることも多かったため、発表方法をより工夫し、深い学びに繋げていきたい。</p>
芸術科	<p>感受できる心と表現する力を育てることを目指し、指導方法の工夫を行う。</p>	<p>本校生徒の実態に応じた教材の開拓、研究を行う。</p>	B	A	<p>音楽では歌唱・器楽教材の開拓を行っている。特に器楽分野では和音(コード)の知識的理解を土台にした演奏表現ができるよう工夫している。また、一曲の表現に対する評価ポイントを3つの観点別に整理するよう試みを行っている。美術では中学校から高校へのつながりを考えた教材の開拓、発送や表現力の向上を目指した取り組みを行った。現行の4観点から3観点到整理できるように試みている。</p>
		<p>生徒の感性をもとにした実技活動を進め、内容を深めるとともに、観点別評価の研究と実践を行う。</p>	B	B	
外国語科 英語	<p>あらゆる生徒に対して、基礎・基本を大切にしながら4技能をバランスよく伸ばすことを目指し、「覚える」よりも「考える」「理解する」ことを意識して教材・授業法・評価方法を改善する。</p>	<p>1年生における学び直し教材を通して、基礎・基本を身につけさせる。2、3年生においても4技能をバランスよく伸ばすことを目指し、アクティブラーニングやパフォーマンス(音読・スピーチ・自由英作文)を取り入れた授業や評価に取り組む。</p>	C	B	<p>4技能をバランス良く取り入れた授業を実施できるよう工夫することができた。年間を通して小テストや定期考査などで工夫を凝らしたテストを実施(音読、スピーチ、自由英作、発表)することができた。考査前補習、補習は充分に実施できた。GTECなどの受検を通して一定の成果を客観的に確認できた。今後も学び直し(特に入学後すぐ、一定の期間を費やして)に重点を置く必要を更に感じた。</p>
		<p>英語を苦手とする生徒に対しては、つまずきの原因を早めに明らかにし、適切な働きかけを行いながら単位認定を目指す。また生徒の関心や意欲を高める様々な工夫をしながら、個々の進路実現につながる授業や補習の実施、また家庭学習の充実と習慣化を図るための課題(宿題、小テストの実施)を計画的に提供する。</p>	B	B	
家庭科	<p>・実践的・体験的な学習活動を通して、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。</p> <p>・授業規律を確保し、授業や学びの環境づくりを大切に。日々の授業を主体的に学ぶ姿勢を育む。</p>	<p>・自分自身の生活を見直し、授業で学んだことを生活に反映できるような学習課題に取り組ませ、知識と技術の向上を図る。</p> <p>・グループ学習や発表会、講演会において、さまざまな人の意見を聴き、多様な価値観にふれ、自分らしい生き方について考えさせる。</p> <p>・調理・被服製作・保育などの実習における教材や指導方法を工夫し、実践力を身につけさせる。</p> <p>・子育て学習プログラムを利用し、「ライフスキル」の探究活動における教材研究をする。</p> <p>・保育技術検定4級合格率100%を目指す。</p> <p>・ICT活用教材の研究を進める。</p>	B	B	<p>・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実習等授業内容を変更したり取り組む内容に制限がある中、工夫し実施できた。</p> <p>・外部講師を招いての講習会や保育園等での体験的授業において、生徒個々がテーマを持って臨み、課題解決にむけた学習が展開できた。</p> <p>・「ライフスキル」の授業において探究活動に取り組み、学習が主体的に取り組めるような教材(ワークシート)、内容(実験、発表)等、工夫できた。</p> <p>・保育技術検定合格率は98.5%にとどまり、目標の100%届かなかった。</p> <p>・ICTを活用した授業に取り組めた。実習事業でのより効果的な活用方法についてさらに研究をすすめる。</p> <p>・授業規律の指導について、年度中盤から後半にかけて中だるみとなった。スマートフォンのルールについて、実習室では収納場所を固定することで徹底できた。</p>
		<p>・授業プリントやレポートを確実に取り組ませ、考査ごとにファイルの内容を確認し評価する。</p> <p>・授業の始まりと終わりの挨拶・授業中の態度・身だしなみ等の指導を徹底し、落ち着いた学習環境づくりに努める。</p> <p>・実習時の服装、身だしなみ(スマートフォンのルール)、衛生安全面についての授業規律を確認させ、周知徹底する。</p> <p>・生徒自身が考えて学習に取り組める内容のワークシートを作成するとともに、意欲的な学習姿勢を持続させられるよう指導方法を工夫する。</p>	B	B	
情報科	<p>授業規律を確保するとともに、「自ら学ぶ姿勢」を養うため、実践的・体験的な学習活動を重視し、発表や相互評価を通して、互いに高めあい、共生社会の中で生き抜く力を育成する。</p>	<p>授業規律の確保に努める。特に、授業開始時終了時の挨拶、身だしなみのチェック、指示を聞く姿勢など、落ち着いた学習できる環境が生徒自身の自覚により生まれるように指導する。</p>	C	B	<p>年間を通して身だしなみ指導等を実施することができた。</p> <p>本年度は、ワープロ検定(延べ12名合格)だけでなく、情報処理技能検定(表計算)、プレゼンテーション検定を受検し合格させることができた。</p> <p>新学習指導要領における授業や評価についての研究の進捗状況は思わしくない。研修などは受けているがなかなか具体的に決められていない。また、プログラミングなど新しく必修化される内容についてもかなり苦労することが予想される。絶対的にサポート人数が不足している。最低限、TTはプログラミングの指導ができる先生にお願いしなければならぬと考えている。</p> <p>作品制作発表も3学期の授業時間数の減少や新型コロナウイルス感染症などの影響で欠席者が多かったこともあり生徒間、クラス間にばらつきが生じ、その対応に追われたが、何とか実施できた。</p>
		<p>来年度より実施される、新学習指導要領に対応する授業の準備、評価方法の検討を進めるとともに、現在在学中の生徒については、学力実態を把握し、実態に応じた実習や授業の展開を考える。また、学んだ技術を活用できる作品制作と発表、相互評価と改善の機会を設ける。さらに、探究的な学習の時間を通じ社会に貢献できる人間を育てる。</p>	D	C	

評価の基準 A:十分達成できている。(目標以上の成果が得られている。) B:ほぼ達成できている。(ほぼ目標通りの成果が得られている。) C:達成できているとはいえない。(成果はあったが、目標は達成できていない。) D:ほとんど達成できていない。(ほとんど成果が得られていない。)